

## りびんぐらいぶず 平成二十一(二〇〇九)年十一月第三号

ありがとう、もったいない、おかげさま(AMO)活動を推進しよう！



図案は、プレジデンテ・プルデンテ本願寺から提起されたものです。

### 一、AMO活動を提案したのですが

秋も深まった一日、二年後にお勤まりになる親鸞聖人七百五十回大遠忌報恩講に向けて南米開教区が一丸となって取り組める企画を何か考えようではないか、と意見提起中の苦心のコンセプトが届きました。

ブラジルは、経済成長著しかったひと頃の日本のように、今まさに使い捨て文化まっさかりだそうです。

そこで、プレジデンテ・プルデンテ本願寺主幹の発案で「まずは私たちから、使い捨て文化をストップさせませんか。例えば、コーヒーを飲むコップとか…」

そのコンセプトとして「ありがとう、もったいない、おかげさま」の頭文字をとって現地語で「愛」を意味する「AMO」を活動のキャッチコピーとし

た「AMO(愛)活動」を提案したのだそうです。

ところが折角のこの提案も会合では審議時間の制約もあってか、なかなかご賛同戴けるまでにはっていないのだそうです。

### 二、AMO活動は、安穩(AnNon)の具体策を示します

そこで、この機会にこのキャッチコピーを支えるコンセプトを整理して、微力ながら支援に替えたいと考えます。

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要のキャッチフレーズは、皆さまもよくご存じのように「安穩(AnNon)」です。

でも、「安穩(AnNon)」と声高に叫ぶだけでは、世界平和が実現できるわけのものでもなく、世の中が安穩になるわけのものではありません。それ故これまでも、単に、AnNonには、AnNon実現に向けての具体的な施策が欠ける嫌いがあると指摘されてきました。社会との関わりをもち安穩社会を実現していくためには、何といたってもその具体策が示されなくてはならないからです。

ところで、既に繰り返しお話し上げてきたように、浄土真宗のお同行、他力の念仏者の歩む道行は、貧瞋二河の自らの姿(悪人)が明らかになり、それゆえ、自力がスタリ、阿弥陀如来のお喚び声に呼び覚まされて歩みゆく白道(びやくどう)です(Ref「二河白道(にがびやくどう)」)。

そうすると、浄土真宗のお同行(他力の念仏者)が社会と関わり、社会の安穩を具体的に実現する具体的な取り組み姿勢として、二河白道のコンセプトを根底においたキャッチフレーズ「AMO活動」或いはまた「AnNon-AMO活動」は、的を得た妙案ではないでしょうか。

蓋し、浄土真宗のみ教えというのは、煩惱がかけめなく揃った私のような者(悪人)こそが、阿弥陀如来様の本願力によりまっ先にお救いに与るのです。これを「悪人正機(あくにんしょうき)」といいます。

戦後のヨーロッパ人が浄土真宗を魅力と感じ、浄土真宗のみ教えに救われていく最も惹かれる理由が「悪人正機」のみ教えにあることは、既に徳永道雄勧学から何度もお聞せに与って参りました(Ref 徳永道雄勧学「親鸞聖人その教えと生涯に学ぶ P101」)

日本でも、古来、阿弥陀如来のご本願のお喚び声に呼び覚まされてお救いに与ってきたお同行は、「おはづかしいこっちゃんのう、有難いこっちゃんのう、もったいないこっちゃんのう」とそのおよろこびを吐露されてきたのであります。

阿弥陀如来の智慧の働きである「光明」に照らし出されるといって、私自身の本当の姿が明らかになります。

それは、貪欲(とんよくにがびやくどう)の二河白道の水の河で喩えられます)、と瞋恚(しんに)の同じく火の河で喩えられます)等で代表される煩惱がかけめなく揃った愚かな私の姿です。そのようなわが身の本当の姿を明らかにお知らせに与ったとき、お同行は「お恥づかしいこっちゃんのう」と思わず吐露されました。

そしてそのような地獄一定、煩惱具足のこの私をこそまっ先にお救い下さる(悪人正機)阿弥陀如来のご本願でしたから、「なんとありがたいこっちゃんのう、もったいないこっちゃんのう」と吐露されたのであります。

言い得て妙のこの三つの嘆息をお同行の三哉と云い伝えていきます。してみると、「ありがとう、もったいない、おかげさま」の頭文字をとった「AMO(愛)活動」の「AMO」というのは、浄土真宗の伝統に立脚しつつも、一方で現代人に直接訴えかける現地語の「愛」を意味し、しかも、今や全人類共通の課題である「環境保全」を視点を据えた素晴らしいコンセプトフレーズだと考えられるのです。

嘗て、ハワイ大学の宗教学教授で、IBS(米国仏教大学院)で教鞭をとっていらしたアルフレッドブルーム博士は、「これからの浄土真宗は、Eng

aged Shin Buddhism(社会に関わる浄土真宗)でなくてはならない」と口癖のようにおっしゃっていたと伝えられます。

今、人類は、地球温暖化問題、循環型社会の構築、自然共生社会の構築という待ったなしの課題に直面しています(Ref「環境白書」P107)。

日本は、環境問題で世界を支援する旨鳩山総理も宣言されました。

これを背負って立つ世界宗教があるとしたら、それは佛教をおいてはないことであります(Ref 徳永道雄勧学「前掲」P111)。

そうすると「ありがとう、もったいない、おかげさま」をコンセプトとするAMO活動は、親鸞聖人七百五十回忌を契機に、勇気を以て世界をリードし、社会を先導する浄土真宗の大切なコンセプトフレーズとしてまことに時宜を得た適切なものではないかと考えられます。

このコンセプトフレーズが採用されるには、浄土真宗のお同行がどれだけ広く賛同のお声を上げて戴けるかによるのではないのでしょうか。

ですから最初はたった一人でも、また、自坊だけのささやかな活動でも、「ありがとう、もったいない、おかげさま」(AMO)活動を自信を以てコツコツと積み上げてゆくことから始めればよいのではないのでしょうか。

デファクトスタンダードは時の流れだと私には思えます。合掌(後書き)AMO活動に因んで、お同行の三哉をご紹介しました。これは、親鸞聖人の三哉に因んでの呼び名です。親鸞聖人の三哉は、申すまでもなく、「誠なる哉、悲しき哉、慶こばしい哉」でありました。合掌

正覚寺報恩講 十月二十四日(土)お逮夜～二十五日(日)満日中  
(お客僧)本願寺派布教使 光明寺尊住 松林尚真師  
正覚寺仏教壮年会例会 毎月第一日曜午後八時より  
正覚寺仏教婦人会例会 毎月十六日午後七時より  
著作編集兼発行元 りびんぐらいぶず編集室(浄土真宗本願寺派 正覚寺内)  
〒520-0501 大津市北小松四五二番地 ☎&Fax077-596-0166 住職 堅田 玄宥

<http://syohgakuji.web.fc2.com/> E-Mail:mhkatata@pluto.dti.ne.jp

(関連文書)

## お同行の三哉

皆様ようこそおいで戴きました。

私共が本日こうして一同に会するのは生涯で最初で最後でございます。私は環境問題に関わっております。

その中で一つ次のようなエピソードがございます。

京都議定書発効の昨年、ケニアのマータイ女史が京都を訪れ、“廃棄物を削減しましょう”という精神をたった一言で表現する日本語“勿体ない”に痛く感動され、国連で唱和して戴きました。

”勿体”とは、”そのものの本質、ものの命”と言っても良い。その命を生かし切ることができなくては残念だというのを”勿体ない”と申すのであります。

ところで“勿体ない”の歴史を繙きますと、これこそ浄土真宗にとって大切な言葉であります。

けだし、如来様のまことのお心を頂戴するみ教えに対して「**ありがたいこっちゃんのう**」と感嘆し、

如来様の光明の御働きによってお育てに与り、やがて私自身の地獄行き間違いのない姿をお知らせに与って「**お恥ずかしいこっちゃんのう**」と顧み、

実は、そのお恥ずかしい私こそが如来様のお救いのお目当てであると聞かせに与り「**勿体ないこっちゃんのう**」と止揚して慶ばれたのは他ならぬ我らが浄土真宗のお同行の三哉だからであります。

如来様のお呼び声に呼び覚まされ、お名号に支えられて生き抜くお

同行八百年の歴史文化の誇りのお心については、お手許にお配りさせて戴いた冊子に詳しくございます。

今日一日が良い日となりますように、如来様の尊前でお誓い申し挙げたいと存じます。ようこそおいで戴きました。合掌

(2006年4月3日正覚寺における滋賀組仏婦総会における会所住職のご挨拶) 堅田 玄宥

合掌